

輝け！シン尾花沢中

第147号

令和7年

12月17日

真理のとびら うちひらく 希望にもえる わが学園

尾中生と同窓生が「幸せ」について語り合った日③～おもだか塾～

今号も「おもだか塾」の第1部における尾中生と同窓生の感想を紹介します。

■尾中生の感想

佐藤輝羅さん（1年）：震災で夢が実現できなかった子供の話を聞き、自分には真剣に打ち込める部活動があり、それを一生懸命にできることに感謝しながら生きていきたいと思いました。

大類 岳さん（2年）：幸せと感謝は強いつながりがあるんだと感じました。また、目指す夢に熱中し続ければ夢はかなうんだと思いました。

倉兼莉麻さん（2年）：現在は普通で当たり前前に思っていることでも、当たり前ではないことを理解して周りの人に感謝を伝えていきたいと思いました。また、勉強すれば可能性が広がるとおっしゃっていたので頑張ります。

吉田真凜さん（3年）：「幸せは、いろいろなことに挑戦するときに、背中を押してくれる人がいること」と教えていただきました。自分にとっては、受験に向けて相談に乗ってくれる人がいることや、親がいることや、教えてくれる人がいることだと思いました。

石山悠斗さん（3年）：誰も我慢せずに社会生活を送ることは無理で、「みんながルールを守るなど最低限の我慢をしなければならない」と気付くことができました。

阿部優太郎さん（3年）：「自分一人だけが幸せでも幸せにはなれない、みんなが幸せだから自分も幸せになれる」という話が印象に残りました。



■同窓生の感想

○普段の何気ない日常の中にある「幸せ」を感じながら仕事等に取り組んでいこうと考えさせられる語り合いでした。「尾花沢中をどのように思いますか」の問いについては、幅広い地域の同級生と関わるができることが素晴らしいことだと思います。私が中学生の頃は玉野中や常盤中がありましたが、交流はほとんどありませんでした。中学生の時から幅広い地区の方々と一緒に生活できるのは良いことだと思います。

○志望校や将来の夢など、私が中学生のころに比べて明確に考えを持たれていると感じました。私は、大学と仕事では愛知にいましたので、県外の人と多く関わってきましたが、尾花沢という自然が多い地域で育ち、当たり前に取り組んできた勉強や部活動で得た経験は強みであると感じました。尾花沢中の後輩たちには、目の前のことに一生懸命に取り組んでいただき、これからの人生での競争相手に負けない力をつけていただくことを期待しています。

次号も、I部における尾中生と同窓生の感想を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】